

# 平成24年度 学校自己評価システムシート ( 県立上尾橋高等学校 )

目指す学校像 **地域に根ざし、生徒一人ひとりを伸ばし、社会に貢献できる人材を育成する。**

重点目標

- 1 基本的生活習慣を確立し、規律意識を高める。
- 2 基礎学力の向上を図り、生徒の資質・能力を高める。
- 3 進路指導の充実により、生徒の自己実現を図る。
- 4 地域に根ざし、信頼される開かれた学校づくりを進める。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	1名
	生徒	4名
	事務局(教職員)	13名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己目標					学校関係者評価	
年度目標					年度評価(1月24日現在)	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	達成度	次年度への課題と改善策
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>ここ数年、本校の生徒の状況は良くなってきているが、課題は残る。基本的な生活習慣を確立するため、隔々まで目を届かせ、細やかかつ迅速な生徒指導を行う必要がある。</li> <li>日常の指導に加え、体験的活動を通して、社会の一員としての生きた規範意識を身につけさせ、自己的的確な判断能力を育てる必要がある。</li> <li>家庭・地域との連携を強化し、生徒が自分の存在を意義あるものとして捉えられるよう指導が必要である。</li> </ul>	○基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>迅速な生徒把握、情報共有、的確な生徒指導、家庭との連携を進める。あらゆる機会に保護者への基本的な生活習慣の重要性、規範意識の向上を連絡し、連携を強化する。</li> <li>地域からの情報にも迅速に対応する。</li> <li>生徒会活動等で、生徒が自主的に学校環境の向上を考える機会を設ける。</li> <li>学校行事等を通して、集団行動のあり方を理解させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒指導案件は減少したか。</li> <li>保護者への連絡が徹底されたか。</li> <li>学校行事等に生徒が主体的に関わる環境づくりを進めたか。</li> <li>生徒会や委員会、部活動は活性化したか。</li> <li>式典等に、はじめある態度で望めたか。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>本年度の課題は完全には克服できていないので、次年度も引き続き粘り強く指導に当たる。</li> </ul>
		○規律意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>服装頭髪、登下校、遅刻防止指導等の徹底。家庭、PTA、地域との連携。</li> <li>社会人基準の規律意識の啓発、定着。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>服装規程の見直し等を通して、規律意識を引き出す機会を設けたか。</li> <li>PTAと連携した指導を実施したか。</li> <li>遅刻、欠席、早退の減少。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き粘り強い指導を行う。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業に対する姿勢に努力を要する生徒が見られる。家庭との連携を一層深め、学力向上・生活習慣改善・安全な環境作り等のためには、授業規律の確立が基礎であるとの共通認識がある。</li> <li>基礎基本の学力を定着させ、充実した学習指導のもと資格取得や進路実現等の成果を上げる。</li> <li>学習指導のステップ化を進めて、生徒に達成感を与えられるよう授業改善に取り組む。</li> </ul>	○授業規律の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>チャイム着席・チャイム始業の習慣化。</li> <li>職員研修(授業規律研修)の実施。</li> <li>授業アンケートの実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>チャイム着席始業は習慣化したか。</li> <li>研修を通して、生徒の授業規律向上意識を啓発したか。</li> <li>授業アンケートの結果の検証。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>チャイム着席は習慣化しているが遅刻生徒を減少させることが課題である。</li> <li>授業規律研修を実施し、情報を共有して協力体制を築く。</li> </ul>
		○学力向上・個性伸張のための授業改善、多様な教育活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ブラッシュアップ」や各教科の授業等で基礎学力の定着を進める。</li> <li>ICT教材の活用。</li> <li>資格取得指導の充実、機会の拡大。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>成績不振者の減少と成績優良者の増加。</li> <li>日常的な基礎学習を実践したか。</li> <li>資格取得の補習体制の拡充。</li> <li>合格率の向上。参加者の拡充。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業規律を確立し成績不振者を減少させることが課題である。</li> <li>ブラッシュアップの時間の工夫と基礎学力定着の組織的補習体制を構築する。</li> <li>資格取得補習と進学補習を組織的に実施する体制を築く。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>雇用環境が不安定の中、分掌と学年が連携し、就職希望者内定率100%を維持した。進学を含め、進路環境の変化を読み取り、一人ひとりに応じたきめ細やかな組織的取組が進められている。</li> <li>明確な進路意識を育てるために、各段階のキャリア教育の位置づけを明確にする必要がある。</li> <li>保護者との情報共有を密にし、理解を得ながら、確実な進路決定につなげていく。</li> <li>確実な進路実現のために学力の向上についての取組が必要である。</li> </ul>	○夢を実現させる進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーション能力向上のために、日常の個別進路相談、校外での体験活動、見学会等を実施。</li> <li>進路部と学年団との情報共有化を徹底し、連携を強化する。</li> <li>保護者への進路意識を啓発する活動に取り組む。</li> <li>進路ガイダンスを体系的に実施するとともに、キャリア教育の充実を図る。</li> <li>進路室、資料室の環境整備を行い、生徒の積極的な利用を促進する。</li> <li>実力テストを通じて、学力の可視化および向上につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体験活動を進路指導に活かす工夫をしたか。</li> <li>進路情報の積極的な発信をしたか。</li> <li>職員間の情報共有化の工夫改善。</li> <li>進路ガイダンス等を適切に配慮しキャリア教育を改善したか。</li> <li>就職希望者内定率は100%を維持できたか。</li> <li>進路未定者は減少したか。</li> <li>実力テストへの取組みの成果があったか。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年の半数を超える約80名(昨年約50名)の就職希望者に対し、あきらめさせることなく指導を続けた。職場見学数は延べ約250社、外部講師による相談会や面接練習は延べ日数約60日など、学年団との強固な協力体制で乗り切った。現時点(1月現在)で約81%の就職内定率である。</li> <li>WEB求人情報は限定的にせず、すべて公開した。同時に保護者への情報提供を密にし、理解を得た。その結果、新規企業の内定者が増加した。</li> <li>進路ガイダンスを生徒の実態に合わせて、各学期に実施し、現実的な目標設定に役立てた。</li> <li>1、2年生は3学期末に実力テストを計画。</li> <li>進路過去資料を次年度につながる形で再整理、資料室をより活用しやすくした。</li> </ul>
		○機会を捉えたきめ細かい情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習や部活動以外でも、日常生活で生徒の良い点を学年通信や学級通信等で保護者に情報発信する。</li> <li>ホームページや携帯サイトでの情報発信をする。</li> <li>教職員間の情報共有の促進。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>分掌、学年、学級等の情報発信を増やす。</li> <li>HP掲示板による情報発信は増えたか。</li> <li>校内の情報共有化は進んだか。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>HPによる情報発信は随時行っているが、HPを見やすいように改善し、生徒・保護者・地域へスピーディーに情報発信を行う。</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域、保護者に向け、生徒の学校生活が見える情報発信に努める。</li> <li>校内の情報共有をさらに進める。</li> <li>保護者来校の機会を拡充するとともに、アンケートなど地域保護者の声を集約する工夫が必要である。</li> <li>日頃から地域との交流活動の充実や自己の生き方について考察できる活動の場を提供する。</li> </ul>	○生徒・保護者・地域の要望・考えを把握し、共有できる組織づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校説明会・中学校訪問時のPR内容方法の再検討。</li> <li>保護者アンケートの実施。</li> <li>保護者の来校機会の拡充。</li> <li>フレッシュ社会体験活動の実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校説明会参加者の増加。</li> <li>訪問中学校の拡充。</li> <li>保護者アンケートの結果と検証。</li> <li>行事等の保護者来校者数の増加。</li> <li>ボランティア活動やフレッシュ社会体験が有意義に行われたか。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学校訪問と学校説明会での配付資料を工夫する。</li> <li>ボランティア活動やフレッシュ社会体験活動は継続していく。</li> </ul>
		○保護者来校の機会を拡充するとともに、アンケートなど地域保護者の声を集約する工夫が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校説明会参加者の増加。</li> <li>訪問中学校の拡充。</li> <li>保護者アンケートの結果と検証。</li> <li>行事等の保護者来校者数の増加。</li> <li>ボランティア活動やフレッシュ社会体験が有意義に行われたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度と比較して、説明会参加者は19%減。</li> <li>訪問中学校数を51校に拡充し全教員で実施した。</li> <li>学校説明会アンケート結果では、先生方の印象や施設設備の面でも好印象である。</li> <li>フレッシュ社会体験活動は1年生全員が5日間実施し、希望者による東北ボランティア活動を2年連続で実施した。</li> </ul>	A	

学校関係者からの意見・要望・評価等

- ブラッシュアップの取組として、国語・数学の基礎学習を継続して欲しい。
- フレッシュ社会体験活動は、あいさつ・礼儀・言葉づかい等学ぶよい機会なので次年度も積極的に参加してもらいたい。
- 東北支援ボランティアを実施する上での費用面を今後も考慮していただきたい。
- 小中学校は学校便り等を地区の回覧板で地域に情報発信しているのので、上尾橋高校も学校通信等の情報を回覧板で地域に回して欲しい。
- 身だしなみ指導や遅刻指導等の生徒指導については、生徒会が先生方に協力して、ポスター作成するなどしてバックアップして欲しい。生徒会を中心に生徒たちが協力すればもっと良い学校になるのではないかと。

